

<これから養蚕を始めようと考えている方へ>

こが い、びと

新・蚕飼人

群馬県は、蚕糸絹業(養蚕・製糸・絹業)に関わる一連の産業が営まれ、平成26年6月「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録を契機に、絹産業再生への機運が高まっています。

こうした中、新たに養蚕を始める個人や企業が現れるほか、養蚕に関心を持ち繭生産を希望する人も見られます。

まずは、新規養蚕参入(新・蚕飼人)の先輩農業者等の事例を見て、自分の理想のイメージを描いてみてはいかがでしょうか。

蚕糸技術センターでは、飼育技術などを学ぶことができる「ぐんま養蚕学校」を開校しています。

新規養蚕のスタイル



1 親の経営に参加・継承

- 親のサポートを受けて、飼育技術や経営ノウハウを学べる。
- 桑園や施設、機械を譲り受けることで、初期投資を抑えられる。
- 新部門を立ち上げて経営を発展させる道も。

2 自分で起業

- 自分がやりたい養蚕経営を目指す参入スタイル。
- 技術の習得から資金の準備、桑園や施設の確保等に初期投資が必要。

3 法人等に就職

- 福祉関係団体や法人等で従業員として働くスタイル。
- 働きながらスキルを身につけ、将来的に独立するルートも。



富岡市 高橋直矢さん(30)



☆新規就農

- ・平成26年4月親元就農

☆技術習得等

- ・両親及び蚕桑研究会やJA青年部、地域の諸先輩方に相談しながら学ぶ。

☆令和2年度養蚕実績

- ・年5回・計60万頭飼育、収繭量1,049.7kg

☆養蚕以外の経営

- ・水稲4ha、タマネギ10a、原木シイタケ5,000本

① 新規就農を志した経緯・背景

両親が農業を営み、一人っ子で幼少の頃から手伝いをし、いずれは家業を継がなければと思っていました。高校、大学と普通科に通っていたので、農業知識はなく、農業は感覚的なことも多いことから、両親が元気なうちに、教わるなら早い方がいいと考え、東京の大学を卒業後すぐに就農しました。

② 就農に向けて工夫したポイント

☆技術を早く身につける(両親を始め、地域の諸先輩方に相談しながら学ぶ)。

☆地域に馴染む(生産組織の蚕桑研究会やJA青年部に加入して、地域とのつながりを大事にすることで、情報収集と早期技術習得の近道となる)。

☆仲間作り(養蚕関係イベントや蚕系技術センターの研修等に参加し、県内新規養蚕参入者等とのつながりを持ち、情報交換に役立っている)。

③ 今後の取り組み

☆我が家では両親が培ってきた複合経営の4本柱(養蚕、水稲、タマネギ、シイタケ)を中心として経営安定を図っていきたい。

☆優良繭生産に向けて、温暖化など環境変化に対応した取り組みを進める。

上蔭室に遮熱ネット設置やエアコン及び送風機等を導入した優良繭生産活動



④ 就農を考える方にアドバイス

養蚕だけで食べていけることは理想であるが、全国的に見ても養蚕専業でなく養蚕複合や他産業従事との組み合わせなどによって営まれている。農業経営全体を考える中での1作目としての位置づけをしっかりとってから取り組んだ方が、定着につながると考える(秋冬野菜導入や他者との労働補完等も養蚕参入と同時進行で考えた方が良い)。

富岡市 浅井広大さん(32)



☆新規就農

- ・平成28年晩秋蚕期飼育開始

☆技術習得等

- ・平成28年度第1期ぐんま養蚕学校修了生
- ・農家研修等で甘楽富岡地域の諸先輩方に相談しながら学ぶ。

☆令和2年度養蚕実績

- ・年5回・計46.5万頭飼育、収繭量860kg

☆養蚕以外の経営

- ・下仁田ネギ20a、長ネギ20a

① 新規就農を志した経緯・背景

甘楽富岡地域の農家の方にお世話になり、研修を受け、先輩養蚕農家の方に感動して、「面白いな、こういう人になりたいな、頑張ろう」となりました。

大学卒業後、青年海外協力隊を経験し、2016(H28)甘楽町地域おこし協力隊員となり、就農準備を進めてきました。

② 就農に向けて工夫したポイント

☆人によって養蚕のやり方が異なるので、色々な人のやり方を見聞きして、自分にあつたやり方(技術を自分のもの)にしていく。

☆先輩農家から話を聞く(技術だけでなく、道具の調達等も相談に乗ってもらった)。

☆冬期間(養蚕の農閑期)の作物検討(長ネギを始める前は、「聖徳銘醸」に勤務)。

☆上簇作業時の人手の確保(地域との関わりを大事にサポーターづくりに努めている)。

③ 今後の取り組み

☆個人としては質を落とさず、繭生産量1トンが目標。

☆養蚕をやりたい人を一人でも増やしていくための活動に力を入れたい(SNSで情報発信している)。

④ 就農を考える方にアドバイス

☆経営として養蚕だけでなく、収入確保が鍵となります。

冬の収入を得られるモノ。何と組み合わせるかを意識することが必要です(自身は聖徳銘醸勤務から、冬のネギ栽培へ)。

☆養蚕の上簇作業は人手が必要で、手伝ってもらうための人の確保には、地域や人と関係性が重要となります。

飼育室に遮光ネット設置や大型送風エアコン等を導入した健康な蚕児飼育と優良繭生産活動



みどり市 (株)ソワ 代表取締役 長竹敏次さん(60)



群馬オリジナル蚕品種「なつこ」
の生糸利用マスク

☆新規就農

- ・平成28年春蚕期飼育開始

☆技術習得等

- ・JA太田市の蚕業技術員や飼育施設借用農家等に相談しながら学ぶ。

☆令和2年度養蚕実績

- ・年4回・計30万頭飼育、収繭量481.2kg

☆養蚕以外の経営

- ・(有)ミヤマ全織ではアカスリ、ボディタオルを中心とした各種編織生地 of 製造事業



① 新規就農を志した経緯・背景

15年程前に群馬県主催のシルクに関する集会で養蚕農家の高齢化、養蚕の減少などの話を聞き、このままでは養蚕が途絶えてしまうという危機感を覚えました。

何かしらの形で、養蚕農家のお手伝いが出来ないかと考え、今後も県産の生糸を使用していくなら、自らが繭の生産に携わり、原料の確保をしていかなければならないとの考えに至り、養蚕参入について県に相談したところ、企業参入は難しいことを知り、一度はあきらめました。平成27年夏頃、養蚕参入に対してハードルが低くなったことを聞き、再度、養蚕参入について検討し、賛同頂いた3社と合同で「(株)ソワ」という会社を作り、企業参入しました。

② 就農に向けて工夫したポイント

☆支援協力体制づくり

養蚕について全くの素人だったので、蚕業技術員等の協力が不可欠であり、県などに相談し、JA太田市からの協力が得られた。また、知人を通しての蚕室の借用やJA蚕業技術員等による桑園や飼育に必要な道具の準備が進められた。

令和3年新設したパイプハウス蚕室での飼育



③ 今後の取り組み

引き続き本業と養蚕の「二足のわらじ」で事業を進めて行き、双方の相乗効果を生かした事業展開が出来ればと考えています。

④ 就農を考える方にアドバイス

☆養蚕は天候に左右されますので、状況に応じた対応が必要です。また、たくさんの方の協力が必要ですから、協力体制づくりが重要です。

☆県産生糸は原材料から加工まで日本で出来ている唯一の繊維です。繭を作る農家の顔が見え、製糸加工での薬剤を使用しないなど、安心安全な素材です。それが地元群馬には、まだ残っていることを考えた事業展開が必要です。

渋川市 NPO法人カラフル 理事長 大山剛さん(49)



☆新規就農

- ・平成29年春蚕期飼育開始

☆技術習得等

- ・平成28年度第1期ぐんま養蚕学校修了生
- ・養蚕経営体育成コーディネーター等に相談しながら学ぶ。

☆令和2年度養蚕実績

- ・年2回・計12万頭飼育、収繭量200kg

☆養蚕以外の経営

- ・障害福祉サービス事業(障がい者の就労支援事業)



① 新規就農を志した経緯・背景

本業で障がい者の就労支援事業を行っています。私たちにとっては、「就農」と言うより「農福連携」を実践していると言った方がしっくりきます。

養蚕をはじめようと思った理由は、養蚕を通して障がい者の方々がより社会と繋がりを持てること、そして伝統を守っていると言う「誇り」をもって作業をしてほしかったからです。

② 就農に向けて工夫したポイント

☆繰り返しますが、本業は障がい者就労支援事業です。「農福連携」と言う考え自体が工夫の賜物だと思っています。

☆基盤事業として福祉を行っているので、養蚕をはじめたこと、そしてそれを継続することは難しくないと思っています。

養蚕による農福連携活動



③ 今後の取り組み

☆障害の適性に合わせて作業を分担することで、より多くの障がい者が養蚕に関われるようにしたいと思っています。

☆繭を出荷して終わりにするのではなく、繭から糸を作り、その糸で機織りを行う予定です。原材料から商品の生産を一貫して行うことで、障がい者に「モノづくり」の楽しさを知ってもらいたいと思います。また、養蚕分野で農福連携の拡大を進めて行く予定です。



④ 就農を考える方にアドバイス

当法人には、ぐんま養蚕学校修了生が3名います。そのうち1名は蚕業技術員となりました。新規参入して養蚕を行うより、農福連携で養蚕を行うことを選択した人たちです。

養蚕に係わる選択枝は色々です。色々な方々と繋がりをもち、情報収集することが大切だと思っています。

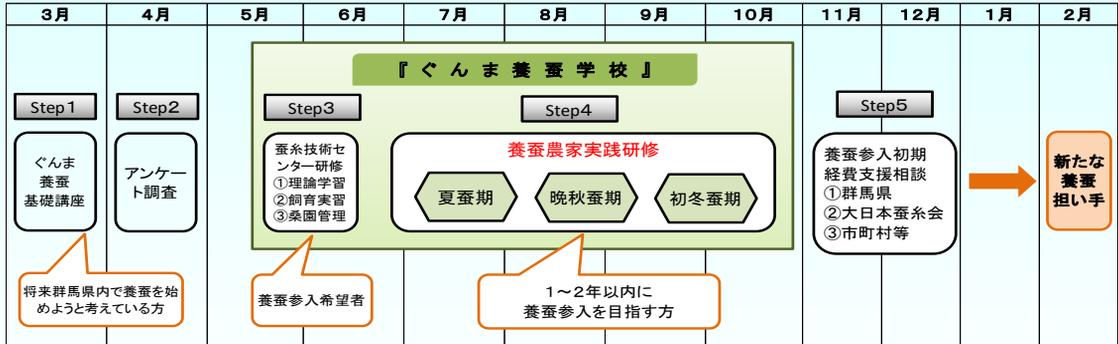
講座・研修

「ぐんま養蚕学校」

群馬県では「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録以降、養蚕への関心が高まるなか、「ぐんま養蚕学校」を開講し、これまで、県内外から100名を超える受講生を受け入れ、個人や企業など25者が新たに養蚕を始めています。

以下のプログラムにより、新たな養蚕担い手の育成・確保を目指していますので、「養蚕に関心がある」「養蚕を始めたい」方は、蚕糸技術センターにお問い合わせください。

養蚕担い手育成プログラム



支援策

「多様な養蚕担い手育成事業（県単事業）」

●事業概要

事業実施主体

- ・新たに繭生産を行うグループ、企業、個人
- ・養蚕参入後5年以内のグループ、企業、個人

補助対象

- ・飼育施設（飼育・上簇施設の借用経費、飼育施設の整備・改修経費）
- ・養蚕資材（飼育台、自動収繭機、回転まぶし、ポール簇等）
- ・桑園（桑園の借用経費、桑園造成に要する経費（桑苗、肥料、農薬））
- ・その他（繭生産の開始に知事が認めた経費）

補助率

- ・1/2（上限500千円）

支援体制

新規就農相談窓口として、蚕糸技術センターが情報提供と相談等を実施しています。

☆飼育技術などは、養蚕経営体育成コーディネーターやJA蚕業技術員と連携を図りながら、ぐんま養蚕学校等を通して、習得支援を行います。

☆農地や施設の確保は、関係機関と連携を図りながら進めます。

実践研修等受入農家からの一言



蚕は人が手をかけないと生きていけない唯一の昆虫。蚕を丈夫に育てるために、餌となる桑の栽培や蚕の飼育の基礎知識は蚕糸技術センター等で、応用や現場技術を農家実践研修で身につけてほしい。

前橋市 松村哲也さん



富岡製糸場のお隣元の当地域は養蚕に適している風土。養蚕のない時期の収入確保を考えた上で、参入してほしい。地域の伝統産業である養蚕が絶えることがないように、若い人に期待したい。

富岡市 金井一男さん

問い合わせ先



群馬県蚕糸技術センター

〒371-0852
群馬県前橋市総社町総社2326-2
TEL.:027-251-5145 FAX.:027-251-5147
E-mail:sanshigise@pref.gunma.lg.jp
http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html